

背戸裏山における富士山の四季

Four seasons in and foot of Mt. Fuji

岩崎行伸

日本平の麓に位置する清水/馬走(静岡)の我が家は、草薙/御門台の山の手
にあり、先住地の清水/押切(静岡)から真南方向に所在するところである。JR
清水駅より略5km、JR草薙駅より3km、静岡鉄道・狐ヶ崎駅より2kmほど南山
道に入った閑静な住宅団地でもある。

ここは、日本平へのハイキングコースに静岡県指定され、春季や秋季の平日に
は近辺の園児・児童らの遠足と、土日曜日の朝夕ときには老若男女らの愛犬&
散歩コースにもなっている。

馬走/清水/静岡の地に永住を決心した動機は、昭和天皇崩御の平成元年(1989)
3月の頃、未だ薄暗い肌寒い中の早朝散歩/ハイキングの時、背戸裏山(143.57m
ピーク)に出かけることが一日の始まりであった。この時々には、木枝から木枝
へと飛び渡り囀る野鳥たちの鳴き声に感動したことである。

殊に、年々における初春の四季を告げる鶯やホウジロ・雉等の求愛の鳴き声
が清々しく、心身ともに癒しと生きの意欲を創造し、倍加した後、300mm望遠デ
ジタル一眼カメラ(Canonkiss5x)と50mm(tamron)接写と携帯電話・録音機を
両肩に懸けて、身近な自然の四季景観を満喫するために、背戸裏山の四方の景
観と、ここから眺望できる富士山(3776m/世界文化遺産)の周年・四季の移り
変わり(挿入写真)が晴れ間常時ウオッチングできる、恵まれた自然環境空間
である。

「富士山-聖と美の山」によれば、明治を代表する児童文学者・巖谷小波氏の
作詞による文部省唱歌「富士山」の歌詞(1910)を次に引用する。

あたまを雲の上に出し、
四方の山を見おろして、
かみなりさまを下にきく、
富士は日本一の山。

背戸裏山における富士山の四季・景観

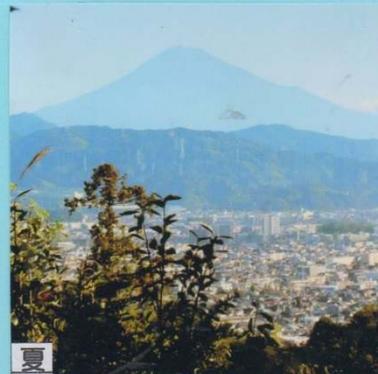
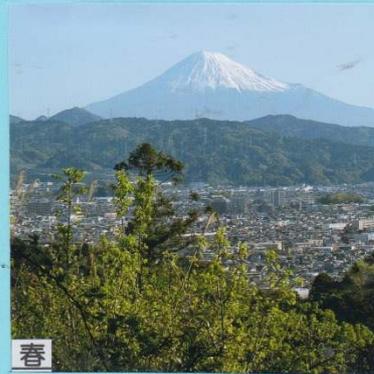


Photo by Y. IWASAKI

小生が、背戸裏山の散歩時から見る富士山の四季の移り変わりは年々により若干異なるが、秋季・冬季・春季における山頂や裾野及び宝永山（大噴火、1707）

付近の積雪状態が季節観を表現できる。特に、春季の5月大型連休時や晩秋頃の初冠雪時期と山頂付近の積雪状態が年々により大きく異なる。また、初夏において、山頂付近にかかる笠状雲形の翌日以降には気象・天候が大きく崩れるようである。

背戸のお山に登ったら、富士が見えたよ、白い山、
父さん今日もあの山で、気象観測してるだろう、
ヒュー ヒュー ブュー ブュー 風が呼ぶ。 (by Y. IWASAKI)

参考図書

- 1) 富士山-聖と美の山 (1982) : 中央公論新社、上垣外憲一著
- 2) 富士山と生き物たち四季の魅惑 (2003) : 黒船印刷、岩崎行伸著
- 3) 続・富士山と生き物たち四季の魅惑 (2004) : 黒船印刷、岩崎行伸著
- 4) 光と影と彩の旅へ (2010) : My HP YAHOO & GOOGLE 岩崎行伸編著

挿入資料

- 1) 背戸裏山における富士山の四季 (A: 冬、B: 春、C: 夏、D: 秋)

富士山の四季・景観、会員：自然観察研究会